

●円山動物園のアジアゾウ導入について

円山動物園では、種の保存や環境教育の推進を目的として、平成 30 年秋ごろにアジアゾウの導入を目指すこととしました。

これは、平成 19 年にアジアゾウの「花子」が死亡して以降、ゾウの導入を期待する市民の声を受けて、調査検討を進めてきたものです。

円山動物園では、ゾウの生態に合った飼育環境を整え、国内外の動物園と協力し積極的に繁殖を進めることにより、飼育下のゾウの頭数を維持し次世代の命をつなげる動物園の役割を果たすとともに、多くの市民にゾウの生態や生息地のことを知ってもらいたいと考えています。

1 アジアゾウの導入について

(1) アジアゾウ導入の意義

- ① 陸上最大の動物であるゾウを間近で見ることにより、市民とりわけ子どもたちに驚きと感動を伝える。
- ② ゾウの展示や生息地に関するメッセージを通して、環境問題や生物多様性の重要性について考えるきっかけとなる。
- ③ 東北以北で初となるゾウの繁殖に挑戦し、群れ飼育と繁殖についての先進的な動物園を目指し、市民の誇りとなる「いのち輝く」交流拠点とする。

(2) 導入時期（予定）

平成 30 年秋

(3) 導入頭数

雄 1 頭、雌 2～3 頭。将来的に 5～6 頭の群れを目指す。

(4) 飼育展示方法について

① ゾウ舎の整備について

ア 場所

円山動物園「熱帯動物館」を解体する跡地に整備する予定。（中央区宮ヶ丘 3）

イ 広さ

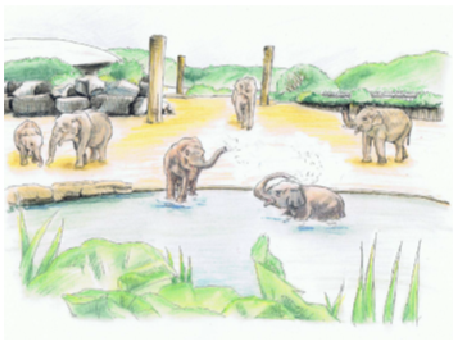
屋内 2,000 m²程度、屋外 3,000 m²程度

ウ 工事期間（予定）

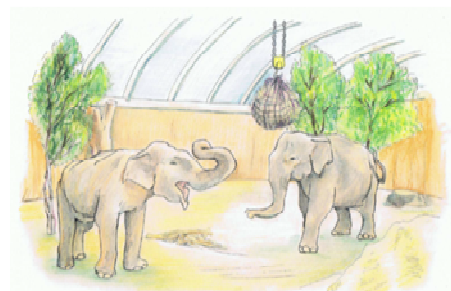
平成 28 年～29 年

エ 概要

雌を中心とした群れで暮らし、長い時間を歩き採食するゾウの生態に合わせ、広い敷地や砂床、水浴び場などの環境を整える。



▲ゾウ舎デザイン図（屋外）



▲ゾウ舎デザイン図（屋内）

② 飼育方法について

ゾウのストレスにならない飼育・健康管理を行うため、「準間接飼育方法（プロテクトッド・コンタクト）」を採用する。これは、専用で作られた防護壁設備を介して飼育員や獣医師がゾウと同じエリアに入ることなく採血や体洗いなどの管理を行う飼育方法。ゾウにとってはストレスが少なく、飼育員や獣医師にとっても安全に飼育管理を行うことができる方法として、近年世界的に導入が進んでいる。

③ 教育プログラムの作成について

ア 学校教育プログラム

子どもたちを対象としたプログラムを充実させるため、小・中学校と円山動物園が共同で、授業に活用できる動物園授業プログラムを作成。地球環境や生物多様性について学んでもらう場とする。

イ 共同研究・大学連携プログラム

大学研究機関等と共同で生態・繁殖生理研究をテーマとした共同研究プログラムを実施し、エンリッチメントの効果分析や繁殖推進につなげる。

ウ 環境教育プログラム

一般来園者向けにゾウの生態・行動の解説を中心とした環境教育プログラムを実施。生息地を守るための意識醸成につなげる。

エ その他

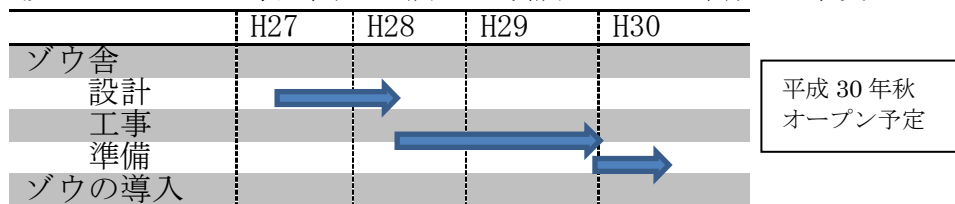
ボランティアガイドによる、ゾウの特徴や、平成 19 年に死亡したアジアゾウ「花子」について解説を行うプログラムを実施。

(5) 導入費用

- ① ゾウ舎建設費：約 20 億円
- ② 飼育代・光熱水費：年間約 2000 万円

(6) 導入スケジュール

施設のオープンは原産国との調整が順調に整えば平成 30 年度となる見込み。



<参考：アジアゾウについて>

東南アジア、中国南部などに生息。雄の体長 5.5～6.4 メートル、体重最大 5～6 トン。推定個体数は 1990 年前後の約 10 万頭から 2008 年には 36,000～51,000 頭へ減少し、絶滅危惧種とされている。日本国内飼育数は 82 頭（平成 26 年 11 月時点）。